

## 【熊本県賞】

### 君の「水」は誰のため

熊本県 真和中学校 三年 木下 航

水に関して、熊本県のホームページを覗くと「くまもとの水検定」をみつけた。好奇心で試しに解いてみた。

「熊本の水ってそんなに美味しいの？」

「熊本の水の名所ってどこ？」

「地下水は大丈夫？」

小学生の頃に社会や理科の授業、総合の時間で学習したはずなのに、知らないことばかり。たくさん学びがあった。

印象に残ったのが、阿蘇山という自然からの恩恵と、加藤清正の大規模な水田開発だ。熊本市が渇水時でも断水の経験がないのは地下水を中心とした水循環の仕組みがあるという。四百年前の先人の努力による恩恵に改めて驚きと感謝を感じた。十四年間熊本で過ごすなかで、いかに普段から無関心で水を使っていたか、水を「あたりまえ」と捉えていたかを気づかされた。

最近読んだ中で、心に響いた言葉がある。

「この鉛筆を作る人は世界に一人もいない」

これは経済学者フリードマンという人の有名なスピーチだ。普通のどこにもある誰でも買えそうな鉛筆だが、使われている木材はワシントン州で伐採された木からできている。その木を切り倒すノコギリには鋼が必要で、その鋼を作るには鉄鉱石が必要だという。真ん中の黒い芯は圧縮グラファイトでできていて――。他にも頭の部分についている小さな消しゴムや接続部分の金属は、塗料やそれを定着させる薬剤など、何千人もの人々がその鉛筆を作ったと彼は説明する。

愕然とした。そんな大きな考えが、自分には全くなかった。

「水も同じだな」と思った。

自分たちが飲んでいる水道水は浄水場から作られている。浄水場まで流れる地下水を溜める水田がある。そして水田にたまる雨や雪を自然が

作っている。水質管理をする人々の思い。安心、安全が当たり前とされている責任感。

「水は一人で作れない。」

そう思うと普段から何気に使う水の価値観が変わった。今日の激しい雨も、大きく考えれば恵みの雨となり、大地を潤し、自分たちの生活に欠かせない水となる。水への想いは深くなってきた。

熊本の水は「蛇口をひねればミネラルウォーター」と羨ましがられるほどで、世界に熊本の良好な生活環境をアピールできる宝物なのだ。熊本ではTSMCが稼働し、すでに住民たちの水問題への不安は増す一方だ。地球温暖化での気候の変化、梅雨時期によく聞くようになった「経験したことのないレベル」の水害。

自分たちの未来が危うくなってきたら漠然とした不安は、自分たちが意識をして、行動をおこし、それを僅かな力でも継続することで解決できるかもしれない。

行政などの他人任せではなく、自分たちの未来にどうつながられるか――。

熊本の水を誇りに思い、自慢できるだろうか。水を敵に回すも味方に回すも自分たちの意識次第。「自業自得」とならぬよう、努めたい。